

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU

11

November 2016
No.765



父親学級・亀田地区「おさかなマイスターによるおさかな講座」(新潟市)

昨年度の受講生を講師に迎え、魚のさばき方を教えてもらいました。

4~5 特集 生涯学習県民フォーラム2016 開催

CONTENTS

- 2………… トピックス 下越地区公民館関係役員等研修会 兼 下越地区社会教育研究集会
- 3………… 視 点 避難所としての公民館への期待 燕市吉田公民館長 五井 勇二
ひ ろ ば 「ボランティア活動をとおして」 胎内市社教委員・公運審委員 佐久間敏昭
掲 示 板 「深めよう絆 県民の集い」開催
- 6………… 実践記録シリーズ 「むらかみ市民講座」 村上市中央公民館
- 7………… サークル交流 「心豊かな時を過ごす」(出雲崎町) / 「コーラスを愛する仲間」(聖籠町)
素 顔 拝 見 今井 知宏さん(新発田市) / 金子 昌則さん(加茂市)
- 8………… お元気ですか 「生きがいは山歩き」 柏崎市・春川 純一さん
ネットワー

TOPICS

下越地区公民館関係役員等研修会 兼 下越地区社会教育研究集会

○今年度の下越地区管内公民館関係役員と社会教育委員が交流と親睦を深めながら、公民館のあり方や社会教育等の課題について考えることを趣旨として研修会が開催されました。

日時：平成28年10月5日(水)

10:00～15:40

会場：胎内市産業文化会館

参加者数：104名

○研修テーマ「社会の変化に対応する生涯学習・社会教育の創造」～活力あるまちづくりに社会教育の果たす役割～

○研修日程

10:00 開会

挨拶 下越地区社会教育委員
連絡協議会長(三浦公平)
祝辞 下越教育事務所長
(佐藤政志氏)

挨拶 胎内市長(吉田和夫氏)
10:30 講演会
「昭和の不良少年から見た
平成の少年」

講師 (株)安田組会長
安田光一氏

13:15 分科会

1～5分科会

15:10 閉会

指導 下越教育事務所社会
教育課長(伊比宗宏氏)

挨拶 下越地区公民館連絡協
議会長(松川稔明)



挨拶:左から 三浦会長 佐藤所長 吉田市長

○講演は、少年鑑別所や少年院を出た少年を雇ういきさつや、それらの少年がどのよう

に更生していったかという話
が中心で、豊富な実例を交え
ての講演でした。

講師の持論である「矯正施設を出た少年は職人を目指す
とよい。大概3年余りの修業
を積めばその道で稼げる。頑
張れば親方にもなれる。腕の
良い職人の過去など誰も気に
かけない。ただ、辛抱が必要
だ。それを乗り越えれば幸せ
な人生があるのだと、夢を持
たせるよう頑張らせる」説得
力ある話でした。

テレビ「金八先生」に出演し
た時のことや俳優・武田鉄矢
氏との交流など面白い話の連
続で90分の講演時間が短く感
じられました。



熱弁の講師 安田光一氏

○分科会

午後は1～5の分科会に分か
れて研修をしました。

第1分科会(地域全体で子供
を育むネットワーク)



発表:本間 清(村上市)

第2分科会

(生き生き通学合宿)



発表:近藤高広(五泉市)

第3分科会(公民館が若者に
より学園祭に大変身)

第4分科会

(地域と学校の連携について)



発表:藍木雅義(阿賀野市)



発表:須貝貴子(新発田市)

第5分科会

(地区の公民館活動の重要性)



発表:児玉 功(佐渡市)



「ボランティア活動をとおして」

胎内市社教委員
公運審委員
佐久間敏昭



『これからの教育は、学校だけではダメなのだ。』平成18年当時中条小学校長Hさんが、私たち学校支援ボランティア運営委員に熱心に語った。地域の力・知恵を総動員して教職員の一助となり子どもたちを育てていこうというものだった。その後胎内市の学校と地域の協働は、胎内市教育振興基本計画よりやや進んだ状態で推移しているようだ。中条小学校のボランティアへ

の『感謝の会』のとき子どもたちが『学校坂道』という歌を合唱してくれた。自分たちの自慢の学校は、学校・地域・児童の同じ想いがいっぱい詰まって光り輝いている。歌声からはそう感じられた。ボランティアさんたちの眼に光るものが見えた。「子どもたちから元気をもらった。」「参画してまるで自分自身の為のようだ。」そんな声が聞こえた。

家庭環境や少子高齢化等社会が変化している今、そういった気持ちを持てる人たちが増えてほしいなと思う。私もできる事を続けて行こうと思う。老若男女問わずに共生できるように。下越教育事務所のーさんは『生涯学習教育は、今日行動する、しに行くところがあることが教育(今日行く)』だとか。できることを続けています。

視点



燕市吉田公民館長
五井 勇二

避難所としての公民館への期待

4月の熊本地震や度重なる台風など、今年も日本列島が災害に見舞われています。「なぜ、避難所に行かないのですか」という問いかけに「公民館が避難所なら行くのですが」と答えている映像が、ニュースで流れていました。

そこで、公民館や生涯学習に関係する人たちと炉辺談話的に、「公民館が避難所として期待されること」を学校と比較しながら考えてみました。

- ① 学校より町中にあり、身近な存在である。
- ② 学校も同様であるが、公立の建物であり、耐震性など安心感がある。
- ③ 職員が住民にとつて顔なじみである。
- ④ 各部屋にエアコンが付いている。
- ⑤ 学校の体育館よりトイレに行きやすそう。
- ⑥ 和室や調理室があつて、家庭と同じような生活ができるそう。
- ⑦ 小さな部屋があり、プライバシーが守られそう。

などが挙げられました。公民館によつては「そうだ」と言い切れない面もあるかもしれませぬ。しかし、もしもに備えて住民にとつて身近で安心できる公民館を目指して、ハード・ソフトの両面で準備し続けることが大切です。公民館月報9月号「視点」に、新潟県立大学植木信一准教授が避難所としての学校の良さを書いておられます。災害に備えて、公民館と学校がそれぞれの良さを生かし、補完しあうためにも、学社連携が重要だと改めて考えています。

掲示板 HOT NEWS

「深めよう絆 県民の集い」開催

新潟県教育委員会では「いじめ見逃しゼロ～わたしたちができること」をテーマに「深めよう絆 県民の集い」を開催しました。

期日：平成28年11月5日(土)

会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館コンサートホール

内容：実践発表 / リレートーク / 県民の集い「いじめ見逃しゼロ宣言」

実践発表：村上神納中学校、柏崎刈羽中学校、労金

笑顔プロジェクト

リレートーク：上越三和中学校、長岡東中学校、新潟高校、帝京長岡高校、PTA 連合会、新潟日报社、相村建設、ブルボンポロクラブ、ALSOK

進行：伊勢みずほ(フリーアナウンサー)

江口 歩(ナマラエンターテイメント)

*公民会連合会は本事業の構成団体です。12月号の公民館月報で大会の様子を掲載いたします。

特集

生涯学習県民フォーラム2016 開催

10月28日(金)、29日(土)に県教育委員会主催の生涯学習県民フォーラムが開催されました。県教育委員会では実行委員会を組織し、事業企画には県社会教育団体懇話会(会長・早川寿男県公連会長)10団体が実行委員として参画してイベント開催準備を進め、当日の運営にも協力しました。

当日は小雨模様の肌寒い天気で屋外ブースの開設をやめ屋内で対応しました。オープンする午後には雨が上がり、会場となった県立生涯学習推進センターには、初日の講演会が満席になるほど多数の県民が集まり終日にぎわいました。両日の模様を記録写真により紹介します。

1 開会式

〈10月28日(金)午後1時30分〉



授与者は高井盛雄副知事



手話通訳と要約筆記

いきいき県民カレッジ奨励賞(学長賞)表彰式

2 講演会

講師： 辻井いつ子さん
「明るく、楽しく、あきらめない生き方」



整理券配布に多数の人が並びました。

1 起震車体験(担当 ボーイスカウト)

〈10月29日(土)午前10時〉

起震車体験を会場前で行いました。肌寒い気温の中でしたが、参加者はほぼ途切れることなく多数の人が参加しました。



2 親子遊び「たみさんと遊ぼう」

(担当:ガールスカウト、生涯学習協会)

会場では「たみさん」の歌とジェスチャーに合わせたいろいろな遊びがにぎやかに行われ盛り上がりました。



3 講演会「チヨイ待ち育児のススメ」

講師：同志社大学教授 小西 行郎さん

講師の小西さんの軽妙な語り口と映像を示しながら育児の本質に切り込む興味深いお話でした。1時間では短く、もっと聞きたいと思わせる良い講演でした。



4 講演「暮らしと防災」／芸能発表「佐渡・春駒」
(担当:婦人連盟)



防災講演: 県LPガス協会
佐藤和彦さん



佐渡伝統芸能「春駒」上: 太鼓と口上を述べる人
下: 踊りと口上者との掛け合い

5 公民館活動発表会
(担当: 社会教育主事等会、生涯学習協会)



新潟市中央公民館と坂井輪地区公民館が
実践発表をしました。

6 手作りおもちゃ
展示と制作(担当:
生涯学習協会)



新潟子ども医療専門学校の学生。
後方は、応援マスコットの「トッキッキ
(県)」と「たっちゃん(新潟市中央区)」

7 子ども積み木遊び
「子どもの遊びの
ひろば」(担当: 県
子ども会育成連合
会)



木製積み木を自由に積み上げるコーナー。
親子連れでにぎわいました。

8 チャレンジ広場 お話の部屋 団体の活動紹介
(担当: ボーイスカウト、小中PTA連合会、
ガールスカウト、婦人連盟、生涯学習協会)



親子でチャレンジ オセロと各種ゲーム

9 高校生活動成果品展示と小物販売
(担当: 高PTA連合会)



新発田商業高校のブースと新潟商業高校の
みなさん。予定の小物販売は完売しました。

- 2 日間を振り返って、過去2回の同イベントと比べると運営に多数の工夫が見られました。
 - 1 会場入り口のにぼり旗を立ててアピールしたこと。
 - 2 開催パンフレットやポスターが例年より早く完成し配布できたこと。
 - 3 活動紹介ブースに高校生、学生、ガールスカウトなどの若者が多く参加したこと。
 - 4 プログラムが盛りだくさんで、来場者が興味を引く内容と構成であったこと。
 - 5 実行委員会の構成団体が例年より多くの出品や活動支援者が参加したこと。
 - 6 講師の選定が良く来場者が増えたこと。
- 来場者数は集計中ですが、例年よりかなり多くの来場者があったと推察しています。大きな成果を上げ来年の開催につながる良いイベントになりました。
- (実行委員長 田原 理(県公連))

実践記録シリーズ

224

むらかみ市民講座

～公民館における市民協働のすすめ～

村上市中央公民館

【企画提案で市民参画促進】

村上市の公民館運営は、市民が主役になれる運営を目標としています。そのため一つの事業として平成25年度から市民からの企画提案型事業「むらかみ市民講座」を実施しています。

これまでの公民館は、講座・教室などを実施する上で、参加者数や満足度などを重視する傾向がありました。市民が様々な分野で学習活動をして身に付けた力を十分に活用できない面もあり、行政主導で進めることで市民参画の意欲が高まらないという課題がありました。

「むらかみ市民講座」では、市民からの企画提案にこだわり、企画を出すだけでなく実施に向けて提案者と行政が協働しながら準備を進めました。

応募のあった企画案の多くは、これまでの公民館でよく見られた趣味や教養に関する講座でしたが、選考段階では、村上市の地域課題や、現代的課題に配慮したものを優先的に選ぶようにしました。

ここで大切なのは参画に対する意識です。「依頼して受諾する」と「自ら企画し参画する」とでは、同じ講座を実施したとしても大きな違いがあります。参画する側の意識付けをしっかりとすることで、その後の主体的な行動にもつながります。

一例を紹介します。平成27年度に実施したNPO法人都岐沙羅パートナーズセン

ターからの企画提案による「コミュニケーションスペース運営ボランティア養成講座」を実施し、地域の茶の間やまちづくり協議会、若者交流スペースなどを運営するボランティア養成講座を実施しました。

講座プログラム

回	日程	内容
1	2/23(火)	コミュニケーションスキルアップ(その1)
2	3/1(火)	救急救命講習
3	3/8(火)	コミュニケーションスキルアップ(その2)

ファシリテーションの基本などを学び、「学んで終わり」ではなく「学習成果を地域活動へつなげる」ことを目標にして講座を実施し、実際に講座終了後、参加者が自らワークショップを主催するなどの成果が見られました。

【今後について】

むらかみ市民講座で市民参画の流れを作り、中央公民館や地区公民館で実施する他の事業に派生していきました。

中央公民館から派生し、各地区公民館でも市民参画の動きが出てきました。

地区公民館には、「公民館運営協力員」を配置しており、協力員の企画提案による事業実施も徐々に充実してきました。「企画段階からの参画」にこだわり、研修や熟議を重ねています。

公民館は、単に学習機会を提供する場所ではなく、市民の皆さんが「主体的」「かつ」「創造的」に学習し、地域とつながりを持ちながら、その成果を適切に生かすことができる地域社会を作っていく必要があります。

主査(社会教育主事) 岸 宗光



ボランティア養成講座



心豊かな時を過ごす

絵画サークル

公民館の絵画教室3年間を経て、サークルとして独立して2年目の新米サークルです。月2回、木曜日の午後、花や野菜等それぞれ画材を手に中央公民館に集まります。

若い時から絵が大好きな者同志が描く事の喜びに浸りながら無心に絵筆を走らせます。楽しみはティータイム。コーヒークップを片手にお互いの絵をほめ合い励まし合い、絵談議から花談議と話に花が咲きます。

田中実先生の「上手に描こうとせず楽しんで」の教えに甘えて…果たして上達してい



るのやら…絵が上手になる事は勿論ですが、このわずか2時間が如何に充実し密度の濃い時間である事か。秋の作品展に向けて秘かに闘志を燃やしています。

出雲崎町・絵画サークル
山崎 シンゲ 記

コーラスを愛する仲間にご寄り添って

聖山大学OBコーラス部

町公民館では、60歳以上を対象にした高齢者学級「聖山大学」が開校され、1年間の学習期間で、様々な事業を行い、交流の輪を広げています。卒業したOBを対象にコーラスをやりたい仲間が集まり、「聖山

大学OBコーラス部」として活動しています。

歌う事を楽しみながら音楽の知識やリズムの勉強をし、学べる事のうれしさでみなさん輝いています。公民館を利用してのコーラスグループは、若者たち、少年少女、おおかあさんコーラスの3つがあります。年1回の町音楽祭合同合唱では、憧れの衣装に身を包み、子どもたちのリクエスト曲に挑戦。現代のリズムについていくことがとても大変ですが、子どもたちに迷惑をかけまいと汗だくになって練習に励む姿に微笑ましさを感じます。練習を終えた後、たつた今覚えた歌を口ずさみながら帰っていく仲間たちにこれからもずっと寄り添い続けたいと思っています。



聖籠町 聖山大学OBコーラス部
講師 橋本 洽子 記

素顔拝見

新発田市紫雲寺地区公民館
主任 今井 知宏さん



4月から新発田市紫雲寺地区公民館に配属された今井知宏さんを紹介します。

以前は、社会福祉や税務関係の職場にいたそうで、物腰の柔らかい丁寧な対応が徹底されている先輩です。

そして、性格は大変穏やかでいつも冷静沈着な今井さん。そんな、今井さんの趣味は、お酒とアイドルです。お酒については、中でもワインにとっても詳しく、美味しいワインを紹介してくれます。そして、アイドル歴については、かれこれ10年以上とのこと。イベントで年に数回は、東京へ出掛けます。

当館の職員5名のうち、4名が自宅から職場が10分程の距離の中、今井さんだけが、自宅から職場が1時間弱という状況ですが、車内で好きなアイドルの音楽を聴きながら、仕事へのやる気も高め、日々、公民館利用者や地域の方々のために、業務に励んでいます。

お酒やアイドルに興味のある方はぜひ、紫雲寺地区公民館へお越し下さい。

(新発田市紫雲寺地区公民館 山崎 葵 記)

加茂市公民館
主査 金子 昌則さん



公民館に来て2年目になる金子昌則さんについて紹介します。

加茂市役所に採用されてから15年間、環境課の公害交通係で、市民の生活基盤を担う重要な仕事を任せられてきました。

公民館は今までとは全く違った雰囲気の中での市民との関わりであり、いろんな人との出会いで新鮮な毎日を過ごしていることと思います。

持ち前の素敵な笑顔と優しい人柄で、公民館利用者や講座受講生を中心に〈金子ファン〉が着々と増加しています。

みんなに頼られ、テキパキと仕事をこなしていく姿は、まさに「頼もしい」金子さんであります。

(加茂市公民館 野村 直美 記)

ネットワーク

「第28回全国公民館セミナー」開催

全国公民館連合会では、全国公民館セミナーを開催します。下記のとおり新潟県からの参加者を募集します。

- 1 期日 平成29年1月16日(月)～18日(水)
2 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
3 研修内容 I シンポジウム「公民館70年からの創造―新しい社会の仕組みを創る―」
4 その他 I～VIまでの講師等は全国的に活躍している方々です。

お・元・気・で・す・か

「生きがいは山歩き」

春川 純一

(柏崎市)



市役所を退職し、4月から私も退職者デビュー。退職とは、学校を卒業してから何十年ぶりの長い夏休みに入るようなもの。夏休みの朝は、ラジオ体操から始まるということで、毎朝、体操をしている。

最後の担当課は、生涯学習の仕事であった。職場には、毎日、元気でいきいきと学び集う人生の達人がたくさん来られており、自分もこういう人になりたいといつも感じていた。そんな中で始めた山歩き講座の講師。これから山歩きを始めたいと

※「お元気で」のコーナーは現役をリタイアした方々の後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

思っている方に今まで経験してきたノウハウや山歩きの楽しさを少しでも伝えられたらと思う。受講生だけで新しい山歩きのサークルもできた。名前は「エイジレス山の会」。まさに年齢に関係なく誰でも山登りを楽しもうというもの。もちろん私も会員だ。新しい会には、新しい出会いがあり、わくわくしている。これからも大好きな山歩きを人生の柱に据えて、たくさんの方に楽しんでほしい。

純国産クリーンエネルギー

ダムは、CO2を排出しないクリーンな電力を供給しています。また、都市住民の生活や農業・産業活動などに安定した水の供給を行い、集中豪雨等の災害時には住民の生命・財産を守る機能を果たすなど、国民の安心・安全にも役立っています。

新潟県ダム・発電関係市町村協議会
会長(阿賀町長) 神田 敏郎
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

東京都の保育園問題をテレビで取り上げていました。公園を保育園にすることは是非は別にして、意見を言う人の表情を見てるとまるでヒステリー状態。対応している都職員は戸惑うばかりの様子でお気の毒でした。

保育園がうるさいの、犬がうるさいのと、ただの文句を正論めかして言ってみたり、大抵は自分が溜飲を下げるだけなのではないでしょうか。以前、我が家の隣は保育園で、親や近所の人も一言も迷惑だなんて言いませんでした。今は大変な時代なんです。(田原)